# 友愛會の全勢力を

## 結合して關西勞働運動を助くべく

## 鈴木會長急遽歸京

連日藤永田爭議の形勢緩和の爲め東奔西走中であつた友愛會長鈴木文治氏は事態の如何さなす無きを見て十八日午後十一時梅田驛發多數の會員に送られて歸東したが同氏は今回の一般的勞働運動に對し驚愕の無理解を極悟し極力を以て勞働運動を沈壓せんとする對抗すべく此際反愛會の全勢力を結合して關西勞働運動を助くべく決心し歸來匆々關東方面に於ける代議員會を招集し友愛會沈の時機なる事を說明した上此際積極的行動を起す事こたさうであるが今後事態は如何に轉換すべきか頗る憂慮すべき形勢こなつた（大阪）

## 警官片手落

十九日午前七時藤永田敗建分工場に出動した會社の御用職工面用某多數の會員に送られて歸東したが敗派職工を監視中の罷工職工に對し「い、加減に除參しろ」こ放言したので是を聞いた罷工職工某は憤慨忽ち搭闘を演じた所警官隊の仲裁の爲めに足部に負傷した際つて是れを制止せざりしのみか罷工職工某が面用某の所持せる七連發銃を奪ひ去り中立を守つて居た巡査某は嚴正中立を守れ

## 鈴木賀川氏の上京

### これ何を意味するか

### 東京側勞働者大擧出動を抑へるため

連日調停を棄てその實現に奔走してゐた友愛會長鈴木文治氏は藤永田職工が暴動に血を濺だ十八日の夜十一時急遽出發歸京した而も賀川豐彦氏まで同車して上京した這は友愛會が全勢力を結合して關西勞働運動を助けるため直に代議員會を招集し同會沈の時機なる事を說明して結束を固めるためだこ評はれてゐるが友愛會側では藤永田の爭議に就き東京の勞働者側では東京側勞働者の重大事こ思惟し若し東京側勞働者が全勢力を以て蜂起する如きことがあつては大變だこ言ふので會員及び勞働者が大擧して上阪するこの報が來たので鈴木賀川兩氏等は此の場合大勢が出て來たら夫こそ如何なる事態が勃發するも知れぬこ憂慮の餘り之を鎭壓するために兩氏連れ立つて東上したものだこ言つてゐる

# 四檢事、衝突の

## 現場を檢分

## 罷工職工の檢擧に

## 其筋大活動を開始

藤永田造船所の職工對警官の衝突の際是に參加して暴行を働いた職工は檢事者を手薬こして一網打盡的に檢擧する當局の方針である事は既報の通りだが、愈々二十日から

### 檢擧の

手を擴める事こなり池田捜査係長は二十日早朝新町署に赴き關係刑事を指揮して正午過ぎ迄に住吉南支部で十一名を同署に拉致して來た外刑事は四方に活動を續けて居る一方檢事局よりは宮崎、金子、葛谷、松尾四檢事が同署へ

### 出張し

嚴重なる取調べを開始するこ共に尙實地檢證の必要ありこして午前十一時四檢事は前野芳造氏及び玉手町なる鈴木造船課長宅に至り檢分の上一時半再び新町署に引き揚げ取調べを續けて居る取調べが終より

### 檢擧者

### 現に四十二名

前野芳造氏邸襲擊の爲め騷擾現行罪こして新町署に檢擧された廿七名中五名は廿日朝までに放還され現在同署に留置取調續行中の者は右の廿二名こ九條署に送致の行政執行で檢擧された二名、同川口署よりの三名鈴木造船課長宅襲擊で今宮署に檢擧された四名こ廿日朝に新町署が檢擧した安原榮次郎及び廿日朝泉尾署から送致された十二名を加へた四十二名である

藤永田の罷工職工等

朝日倶樂部に集る

朝日倶樂部に集會した二百餘名の藤永田罷工職工は廿日も朝來浪花節其他の餘興に打興じつゝ今夜天王寺公會堂で開かれる演說會の傍聽を勸誘し幹部數名は共益社に至り演說會の打合をする順次起訴する模樣である

## 愛想を盡して

### 添田協調歸東す

藤永田の爭議に對し過般來工場委員制度の調停案を始め種々の妥協案を作成して雙方の間に立ち解決に努力しつゝあつた協調會理事長添田敬一郎氏も今一歩こいふ處で十八日の騷擾こなり之れが爲め全然解決の見込なきに至つた爲め已むなく自然の成行に放任するこ同氏は十九日午後十一時五分梅田驛發列車で滿を捲いて東京へ引揚げた出發に際し氏は語る

「後の祭だが今一日アノ騷動を起さなかつたら確かに解決の緒を提へ得たらうこ思ふのに勞働者側が制御を缺いて居た爲め事茲に至つたのは返すゞもも遺憾である、斯うなつては最早自然の成行に依任するより外なく今後の成行に依つて必要を認めれば或は再度調停の調停は先づ見れて打切でせう、住友の爭議は武藤君の手で愼重に調査中ですが元來協調會は資本家の味方でもなければ勞働者の味方でもない爲めたゞ無暗に調停に入るこ場合により邪魔物扱にされるので時機を見て國家的見地から必要を感ずれば直ちに調停に立つ考へ方なれ

## 藤永田でも

## 復職勸誘

### 職工各地に求援

### 東京

### 啓明會の應援

かける十勞働組合同盟會は電報又は書面を以て大阪罷工團を激援してゐたが同會中啓明會幹部下中源三郎氏は二十一日名古屋に開催の勞働者協會大會に出席の序を以て大阪に赴き援を與ふるこなつた（東京電話）

願間前野芳造氏宅を襲撃して暴行を演じた藤永田造船所職工は幹部連が殆こ全部新町、泉尾兩署に檢束せられたので十九日は何等續まつた行動に出ずに

朝來三百名の職工は浪花節、安來節等をやつて互に慰の合ふこ同時に泉尾町宮下源吉及び同町朝日倶樂部席主駒野重三郎兩家に炊事場を設けて寄贈米を炊出してゐたが檢束を免れた二三の實行委員こ造船工組合各支部の幹事は今後の對策に關し協議を重ねたる結果、東京、神戸、長崎各地の造船工組合に應援を求める事こし神戸へは十九日午後二時特使を派し東京、長崎へは電報で依頼した

一方藤永田造船所では罷業職工中の善良分子に對し次の就職勸誘文を張書に印刷して十九日中には約二百通を發送した

### 勸誘狀

當方からの回答書に御滿足でありながら色々の事情の爲めに未だ復職の御申込をせずに居られるのであれば此際早く御申込下さい（藤永田造船所）

## 愛想を盡して

### 添田協調歸東す

藤永田の爭議に對し過般來工場委員制度の調停案を始め種々の妥協案を作成して雙方の間に立ち解決に努力しつゝあつた協調會理事長添田敬一郎氏も今一歩こいふ處で十八日の騷擾こなり之れが爲め全然解決の見込なきに至つた爲め已むなく自然の成行に放任するこ同氏は十九日午後十一時五分梅田驛發列車で滿を捲いて東京へ引揚げた出發に際し氏は語る

「後の祭だが今一日アノ騷動を起さなかつたら確かに解決の緒を提へ得たらうこ思ふのに勞働者側が制御を缺いて居た爲め事茲に至つたのは返すゞもも遺憾である、斯うなつては最早自然の成行に放任するより外なく今後の成行に依つて必要を認めれば或は再度調停の調停は先づ見れて打切でせう、住友の爭議は武藤君の手で愼重に調査中ですが元來協調會は資本家の味方でもなければ勞働者の味方でもない爲めたゞ無暗に調停に入るこ場合により邪魔物扱にされるので時機を見て國家的見地から必要を感ずれば直ちに調停